横浜町商工会 | 有限会社すぎやま（小売業）

支援テーマ
創 経 源 農 販
海 再 承 も 雇
資 持 他

観光客誘致も視野に 土産物店の商品開発をバックアップ

課題 東日本大震災の余波で新商品がふるわず

下北半島の中ほど、陸奥湾に面した横浜町にある、すぎやま（従業員５名）は平成元年設立の土産物店。

横浜町は「菜の花の町」と呼ばれるほど菜の花栽培が盛んであり、同店ではこれまでも地域資源を活用した「菜の花焼酎なの恋」や「菜の花ラーメン」「菜の花はちみつ」などを商品化してきた。

しかし、それらの商品はなかなか売り上げを伸ばすことができず、とくに東日本大震災以降、多くの原子力施設を有する下北半島への観光客が大幅に減少するにともない、売り上げの９割以上を観光客に支えられていた同店は、そのあおりを受け、さらに深刻な状況となった。

これまでに開発した商品は、青森県よろず支援拠点の支援のもとで誕生しており、商品としての品質は一定の高レベルにまで達していた。その反面、コスト削減のために商品パッケージに費用をかけず、また商談会などへの出展や販促 PR も十分に行われていなかったため、せっかく地元の特産を活かした新商品も多くの顧客を獲得するまでにはいたっていなかった。

支援 外部連携で商品プランニング強化

そのようななか、観光客誘致の契機も視野に入れた新商品開発をしたいと考えていた事業者の相談を受け、横浜町商工会と青森県商工会連合会では、支援テーマを「オリジナル新商品開発とプロモーション強化」とし、とくに消費者への訴求ポイントを明確にしたプロモーションに重点を置いた「商品づくり」を目標に事業者を支援していった。

資金面については小規模事業者持続化補助金を活用し、新商品開発にかかる開発費、商品パッケージ、そのほかのプロモーション諸費用を強化することを提案した。

新商品開発の支援については、青森県よろず支援拠点を中心に開発プランニング強化を図り、青森県産業技術センターなどの協力する関係機関が全員集まり意見交換を数回開催し、商品のブラッシュアップの検討を行ったことによって完成度の高い新商品が誕生した。

また、商品パッケージも実績のある専門家がデザインしたことでさらに訴求力の高いものとなった。事業者は「今回は支援機関の皆様の協力・支援体制で素晴らしい商品ができました。来年、再来年とさらにステップアップした商品を開発していきます」と強い意欲を見せていた。

菜の花のエキスも入ったマヨネーズ「恋マヨ」

支援の経過

期 間	支援内容
H26年４月	持続化補助金の活用提案
６月～７月	商品開発についての意見交換
12月	デザイン専門家派遣
H27年1月	事業報告書の作成指導

経営指導員から

今回の持続化補助金活用にともなう経営計画策定から事業実施までにあたり、各支援機関が連携することで、当初予定していた以上の高水準の支援を行うことができました。

この経験や結果をもとに今後もさらに支援機関と連携を密にし、事業者の経営向上のための支援がより有効的となるよう、努めていきたいと思います。

青森県商工会連合会
奥崎 富士雄さん